

11月19日(日) 9:00 ~ 12:00

ICEBA2023

③第3分科会「安全安心な農作物の提供」

会場 あいぽーと佐渡



座長

新潟食料農業大学 講師
さいとう じゅん
斎藤 順氏

新潟農業・バイオ専門学校兼任講師。農業
経営・e-ビジネス・マーケティング等の幅広い
現場知識や経験を活かし、研究教育・地域貢献に活躍する。
2022~2023年、佐渡食と観光の連携による地域活性化検討
会座長を務める。

パネリスト

いすみ市自然と共生する里づくり連絡協議会
環境部会長
手塚 幸夫 氏

高校教員の傍ら、有機稻作と水辺動物
を研究。房総野生生物研究所や、農業・
食育・環境教育を一体化した授業「教育
ファーム」も開設。

サブ座長

新潟食料農業大学 准教授
あおやま ひろこ
青山 浩子 氏

旅行社等を経て1999年より農業ジャーナリストとして活動、2020年から現職。研究テーマは農業人材育成、女性活躍、6次産業化など。

パネリスト

兵庫県豊岡市役所コウノトリ共生部
農林水産課 参事
山本 隆之 氏

28年間農業行政に従事し、2023年より現職。2019年に豊岡市農業ビジョンを策定し、「豊岡グッドローカル農業」を合言葉に施策推進中。

パネリスト

農家／吉井有機給食応援隊
ささき あやの
佐々木 紗乃 氏

夫と共に無農薬のお米と大豆の生産、餅や味噌作りを実施。2020年より保育園給食に野菜を供給する「吉井有機給食応援隊」を開始。

2 分科会報告・閉会式

会場 あいぽーと佐渡

11:30~12:00

各分科会座長からの総括報告、次回ICEBA開催地紹介、大会宣言。

MEMO

11月19日(日) 13:00 ~ 15:00

現地に行こう！特別プログラム

エクスカーション 「トキと共生する里山散策ツアー」

13:00 あいぽーと佐渡 [発] ▶▶▶▶▶ 15:00 両津港 [着]

トキ交流会館付近で行う、現地ガイド付き散策ツアーです。野生のトキが生息している里山環境を散策しましょう！

【ご注意事項】

- ・小雨決行を予定しております。屋外を散策できる服装でお越しください。
- ・昼食や飲み物はつきませんので、各自でご用意ください。



第6回 生物の多様性を育む農業国際会議
International Conference for Enhancing the Biodiversity in Agriculture

「トキと共生する佐渡の里山」から始まる

新・生物多様性農業

開催期間 | 令和5年 11月18日(土) 13:30 ~ 19日(日) 12:00
エクスカーション: 19日(日) 13:00 ~ 15:00

開催会場 | メイン会場: あいぽーと佐渡 (新潟県佐渡市両津夷384-11)
分科会会場: トキ交流会館 (新穂潟上1101-1)、両津図書館 (両津湊198)

主 催 | 佐渡市
運営協力 | ラムサール・ネットワーク日本、(公財)地球環境戦略研究機関
後 援 | 農林水産省、環境省



ICEBA 2023

生物の多様性を育む農業国際会議 (International Conference for Enhancing the Biodiversity in Agriculture) は、生物多様性を基盤とした地域循環型の農業技術の確立と、国内外への普及を最終目標としている会議です。トキとの共生を目指した農業を行っている佐渡では、第2回となるICEBAを、2012年に開催しています。

このたび、第6回となるICEBA2023が、再び佐渡で開催されます。今回のテーマは「新・生物多様性農業」。生きものに配慮した農法、有機農産物、SDGs や脱炭素を踏まえた、これから農業のかたちを考えます。

11月18日(土) 13:30 ~ 17:20

1 開会式

13:30~13:40

2 鼎談 「歴代ICEBAを振り返る」

13:40~14:10

登壇者 ラムサール・ネットワーク日本 理事
くれち まさゆき
吳地 正行 氏

栃木県小山市長
あさの まさとみ
浅野 正富 氏

新潟県佐渡市長
わたなべ りょうご
渡辺 竜五 氏

3 基調講演 「生物多様性保全・脱炭素に向けた農業」

14:10~15:10



講師

東京大学大学院
農学生命科学研究所
准教授
はしもと しづか
橋本 禅 氏

講師略歴

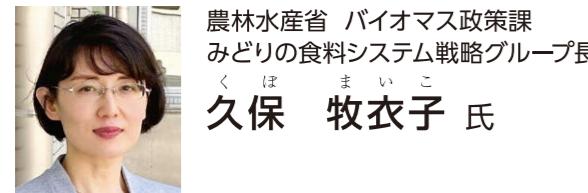
自然の恵み（生態系サービス）の可視化や将来予測を通じた意思決定の支援を目指して研究に取り組む。環境省の生物多様性及び生態系サービスの総合評価、IPBESのアジアオセアニア地域評価、地球規模評価に参画。2018年からはIPBESの運営に科学・技術的な助言を行うために設けられた学際的専門家パネルメンバーを務める。

4 情報提供

15:10~15:50

今日、気候変動対策と生物多様性の保持回復は、世界的な取組課題となっています。農業、生物多様性、脱炭素をめぐる最近の動向について、国の政策の視点から情報提供を行います。

①「生物多様性を表示した農産物の流通」



農林水産省 バイオマス政策課
みどりの食料システム戦略グループ長
くぼ まいこ
久保 牧衣子 氏

②「脱炭素×生物多様性保全を目指して」



環境省 関東地方環境事務所
所長
まつもと ひろあき
松本 啓朗 氏

5 事例報告

15:50~17:00

日本国内や、近隣諸国である中国、韓国では、生物多様性保全、環境に優しい農業、有機農産物の供給などの事例がたくさんあります。開催地・佐渡における取組と、各地の先進事例をご紹介します。

①「トキとの共生を目指した農業」



佐渡農業協同組合
営農振興部 販売企画課
やまだ まこと
山田 慎 氏

②「韓国における有機給食の推進状況」



慶熙(キョンヒ)大学
兼任教授
カン ネヨン
姜 乃榮 氏
(※オンライン中継)

③「持続可能な社会を目指す上での農業分野での取組」



パタゴニア日本支社
パタゴニアプロビジョンズ ディレクター
こんどう かつひろ
近藤 勝宏 氏

④動画放映
「THE GREAT TINY THINGS 偉大なる小さきものたち」(中国・塩城市)

6 サイドイベントからの提案 (動画放映)

17:00~17:20

環境保全型農業を行っている新潟県佐渡市・兵庫県豊岡市・栃木県小山市・宮城県大崎市の小学生たちが、「佐渡の宝物」を探してきました。

交流会のようすを、子どもたちが発表します。

11月19日(日) 9:00 ~ 12:00

1 分科会

※各会場へのシャトルバス有り

9:00~10:30

①第1分科会 「生物の多様性を育む農業のすすめ」

会場 トキ交流会館

トキ放鳥から15年、佐渡の米づくりは生きものを育む農法を継続しつつ、より良い形を模索してきました。生きものを育む農業は持続可能な地域づくりに繋がることから、全国で様々な取組がされています。各地の事例から、生きものを育む農業に必要な考えを整理し、取組拡大に向けて歩むべき道を探ります。



座長

日本雁を保護する会 代表
くれち まさゆき
吳地 正行 氏

日本雁を保護する会・会長、ラムサール・ネットワーク日本・元共同代表。稀少ガン類の復元や、生物多様性を活かし、循環型農業をめざす「ふゆみずたんぽ」に広く関わる。ラムサール賞（湿地の賢明な利用部門）受賞（2022）。

パネリスト

徳島県小松島市役所 産業振興部 部長
いばらぎ あきゆき
荻木 昭行 氏

産業振興課長、産業建設課長等を歴任。同市生物多様性農業推進協議会の設立や、同市有機農業推進計画の策定等に従事。

パネリスト

(農)アグリスターオナガ 代表
はまだ えいじ
濱田 栄治 氏

水稻を中心に、水耕レタスなど少量多品目の野菜を生産。無農薬・減農薬にこだわり、地域の学校田の指導も行う。

パネリスト

農家（認証米「朱鷺と暮らす郷」生産者）
ささき くにもと
佐々木 邦基 氏

農薬に頼らない、トキや生きものに優しい米作りを行うとともに、小学生などへの環境教育にも取り組む。

②第2分科会 「地域再生農業（生物多様性と脱炭素）」

会場 両津図書館



座長

(公財)
地球環境戦略研究機関
上席研究員
ふじの じゅんいち
藤野 純一 氏

初・佐渡来島は2019年5月。2022年12月の生物多様性条約第15回締約国会議(CBD-COP15)inモントリオールに参加。本業は日本やアジアの国・地域での脱炭素・SDGsで、環境省「脱炭素先行地域」評価委員会座長代理等を務める。

サブ座長

NPO法人民間稲作研究所
理事長
たての ひろゆき
館野 廣幸 氏

1954年、栃木県の農家生まれ。1992年より有機農業に転換。現在、「館野かえる農場」として有機稻作など15haを経営。

パネリスト

コープ自然派事業連合
代表理事 理事長
きし けんじ
岸 健二 氏

1989年からコープ自然派生協設立活動参加。西日本2府8県で有機田んぼを拡げ、コウノトリの棲息環境づくりを事業課題として掲げる。

パネリスト

NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク

ふじい あやこ
藤井 紗子 氏

滋賀県在住。食の安全性を求めて地域生協づくりに関わると共に、琵琶湖で環境専門の生協を立ち上げる。

パネリスト

(有)齋藤農園
代表取締役
さいとう しんいちろう
齋藤 真一郎 氏

トキと共生する農業にいち早く取り組んだ1人。朱鷺と暮らす郷認証米や自然栽培米など水稻、果樹、ハウスイチゴなどを手掛ける。

パネリスト

パタゴニア日本支社
リジェネラティブ・オーガニックリサーチ担当
きむら じゅんpei
木村 純平 氏

リジェネラティブ・オーガニック農業に対する共感・賛同・実践者を国内に増やし、環境再生可能な農業へと移行するサポートを行う。

